

NPO & 地域連携委員会便り

令和5年1月20日

発行者：特定非営利活動法人 やわた創生プロジェクト 事務局
庄原市東城町森 2668-2 八幡自治振興センター内 TEL08477-4-0205

～この活動は広島県共同募金会の支援を受けて行っています～

自然災害は地域社会に激変をもたらします。昭和38年の豪雪は、瀬戸内海沿岸の工業地と相まって、中国山地に深刻な過疎化をもたらしました。この度の豪雪は、コロナウイルスの感染拡大やテレワーク等のIT化と相まって、私達に何をもたらすのでしょうか。過疎対策アンケートによると、都市地域の人々が過疎地域に期待することは、①安全な食糧や水等の供給 ②多様で豊かな自然環境の保全 ③日本人の心のふるさとの文化の継承です。農業後継者不足や荒廃する森林や耕作放棄地、伝統芸能や文化の担い手不足など、過疎地域の弱点と都市地域の人々の期待は表裏一体をなしています。

今年のNPO法人やわた創生プロジェクトは「故郷やわたを元気にしたい。私達の弱みを強みにしよう。」を目標にがんばります。ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

女子第34回全国高校駅伝の横断幕作成 & 設置

昨年の12月26日(日)に京都で全国高校駅伝大会が実施され、この大会に広島県は世羅高校が男女ともに出場しました。中でも、女子の部では、八幡地域出身の**芳賀あかりさん**(高2)が選手として参加されたので、応援の横断幕を作成し、町内の街中に設置しました。

これまで、「いいやま子ども塾」では、平成28年から令和元年度にかけての4年間 夏休み中に7回、八幡小学校や西城クロカンパークを会場に、「庄原の大自然と子どもたちの未来をそだてよう!」と題して「スポーツ教室」を開催しました。講師に、世羅高校の監督(岩本真弥他)やケニア留学生、実業団選手を招聘し、サポーターや保護者の協力を得ながら、庄原市内の小中学校の児童・生徒が数多く参加しました。その数は、4年間で延べ123名にもなり、陸上競技に対する興味や高校の練習方法を学びながら走力向上にもつなげることができました。また、ケニアからの留学生と一緒に運動することで国際交流を深める事にもなりました。この取り組みが少しでも子ども達の挑戦ある未来につながったのではないのでしょうか。

今後も、さらに飛躍してくれることを願っています。



留学生との練習
H30 8・23

応援の横断幕
R4 12・26



ウサギのように飛び跳ね
飛躍の年になりますように!

「森のカフェ」(12月11日)

今回は、23名の参加で押絵作りとスイートポテトに挑戦しました。押絵は、各自が選んだ台紙にパーツ(綿をつけた型紙を布でくるんだ可愛いウサギ)や赤ピンク色等の綺麗な花びらを、自分なりに自由に貼り付けます。指導や準備をしてくださった池田秀子さん、竹本町子さん有難うございました。

また、今年豊作のサツマイモで作った甘いスイートポテト & 焼き芋、野菜等を販売する交流市場もあり、寒い中での賑やかな一日となりました。ご協力ありがとうございました。次は、4月を予定しています。



交流市場では、毎回、希望を聞いています。今回はゆずでした。